

第 2 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成27年6月29日

開 会 中

場所 第 1 委 員 会 室

第2回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成27年6月29日（月曜日）

午前9時59分開議

午前11時43分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件
- (2) ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件
- (3) 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件
- (4) 共通
- (5) 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- (6) その他

出席委員(15人)

委員長 溝口幸治
副委員長 田代国広
委員 氷室雄一郎
委員 藤川隆夫
委員 荒木章博
委員 重村栄
委員 西聖一
委員 早田順一
委員 高野洋介
委員 濱田大造
委員 橋口海平
委員 河津修司
委員 松村秀逸
委員 中村亮彦
委員 松野明美

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

商工観光労働部

部長 高口義幸
政策審議監 奥 藺 惣 幸
観光経済交流局長 小原雅晶
観光課長 満原裕治
国際課長 磯田 淳
くまもとブランド
推進課長 成尾雅貴

教育委員会

教育理事 金子徳政
教育政策課長 田村真一
体育保健課長 平田浩一

総務部

人事課長 青木政俊

企画振興部

地域・文化振興局長 山本國雄
地域振興課審議員 小牧裕明

健康福祉部

障がい者支援課長 井上康男

土木部

道路都市局長 手島健司
都市計画課審議員 緒方 誠

警察本部

警務課長 林 修 一
交通規制課長 木庭俊昭
総合企画室長 井野新輝

事務局職員出席者

政務調査課主幹 松野 勇
政務調査課主幹 法川伸二

午前9時59分開議

○溝口幸治委員長 おはようございます。ただいまから第2回国際スポーツ大会推進特別委員会を開会いたします。

では、まず私から御挨拶をさせていただきます

ます。執行部を交えての最初の委員会ですので、代表して御挨拶を申し上げます。

本委員会のメンバーを見ていただくとおわかりのとおり、論客がそろっております。国際スポーツ大会、それぞれ関係者の方々の御努力によって誘致も成功しました。あとは、しっかり準備を整えて成功させるのみであります。執行部もそれぞれ準備に取りかかっているかと思いますが、議会でも特別委員会をつくって一緒になって大会を盛り上げて成功に導きたいというふうに思っておりますので、この委員会でしっかりとした議論ができるように、執行部の皆様そして委員の皆様方の御協力をどうぞよろしく願いいたします。

簡単ではございますが、委員長としての御挨拶にかえさせていただきます。

ありがとうございました。

それでは、副委員長からも一言御挨拶をお願いいたします。

○田代国広副委員長 おはようございます。

本来ならば溝口委員長を補佐してということですが、私の場合は溝口委員長の足手まといにならないように十分注意しながら、円滑な委員会運営に努めてまいりたいというふうに思っております。

したがって、執行部の皆さん、そしてまた委員各位の御指導と御協力をいただきながら円滑な委員会に努めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。お世話になります。

○溝口幸治委員長 それでは、執行部を代表して高口商工観光労働部長から、御挨拶をお願いいたします。

○高口商工観光労働部長 おはようございます。

執行部を代表いたしまして御挨拶と、それ

から本委員会の付託案件の概要について説明をさせていただきます。

溝口委員長、田代副委員長を初めとしまして、委員の皆様方には当委員会に付託されました3件を御審議いただきます。執行部といたしましても、経済浮揚等大きなチャンスとして捉え積極的に取り組んでまいりたいと思いますので、御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、付託案件の現在の状況を説明させていただきます。

恐縮ですが、着座にて説明させていただきます。

第1に、「2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件」でございます。

平成25年10月28日に熊本における開催が決定し、平成27年1月27日には「2019女子ハンドボール世界選手権大会熊本推進協議会」を設立いたしました。今後、市町村や競技団体などとともに、シンボルマークの作成、運営計画等の作成に向けて取り組んでまいります。

第2に、「ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件」でございます。

平成27年3月2日に、熊本県・熊本市が、全国12の開催都市の1つとして決定されました。今後、熊本市や競技団体などと連携し、大会の盛り上げ等に取り組んでまいります。

これらの大会につきましては、今年度から準備を本格化させたところであり、大会の成功に向けて、スピード感を持ってしっかりと準備を進めてまいります。

第3に、「2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件」でございます。

2020年7月から8月にかけて、東京都を主会場にオリンピックが行われ、8月から9月にかけてパラリンピックが開催されます。

今後、各市町村や競技団体の意向を伺いながら、キャンプ誘致の実現に向けて取り組ん

でまいります。

また、本県から多くのオリンピック・パラリンピック出場者を生み出せるよう、選手育成強化に向けて支援を行うこととしております。

最後に、それぞれに共通する事項といたしまして、「国際スポーツ大会を契機とした地域活性化」がございます。

これらの大会開催やキャンプ誘致を一過性のものに終わらせるのではなく、本県がさらに飛躍する大きなチャンスとして生かし、「次世代に引き継がれていく有形・無形の熊本の財産」、いわゆる「レガシー」を築いていきたいと考えております。

このため、6月8日に全庁一丸となって取り組む推進組織として、「くまもと国際スポーツ大会推進本部」を設立いたしました。

今後、本委員会並びに各委員の皆様のお力添えをいただきながら、競技団体、企業、学校にとどまらず、多くの県民の皆様などとも連携し、着実に準備を進めてまいりたいと考えております。

初回となります本日の委員会では、各案件へのこれまでの経緯や概要、本年度の取り組みなどについて御説明させていただくことにしております。

どうぞ、よろしく願いいたします。

○溝口幸治委員長 次に、執行部関係部課の職員の自己紹介をお願いいたします。

（高口商工観光労働部長、奥菌政策審議監～井野総合企画室長の順に自己紹介）

○溝口幸治委員長 それでは、審議に入ります。

お手元に配付しております本日の次第に従い、まず執行部から一括して説明を受け、その後、質疑は議題ごとに行いたいと思いま

す。

なお、委員会の運営を効率的に行いたいと考えておりますので、説明につきましては簡潔をお願いいたします。

満原観光課長。

○満原観光課長 観光課長の満原でございます。

それでは、まず「2019女子ハンドボール世界選手権大会熊本開催」関係について御説明いたします。

1 ページをお願いいたします。

まず、経緯について御説明いたします。

表の上から、これまでの経過を簡単にまとめております。

平成25年10月28日に、女子ハンドボール世界選手権大会の日本・熊本での開催が決定いたしました。

翌年の3月28日には、県庁内の推進本部として、熊本県2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会推進本部を立ち上げ、女子ハンドボール世界選手権大会の開催準備、ラグビーワールドカップ2019の試合会場誘致、オリンピック・パラリンピック等のキャンプ誘致について、その取り組みの方向性とともに関心を持っていくことを確認いたしました。

同年の6月27日には、実務的な検討を横断的に進めるため、県、熊本市の担当課長及び競技団体で構成する「きてくまPT」を設置いたしました。これはプロジェクトチームとしての位置づけではありますが、競技やテーマに応じて部会を設置し、共通の課題への対応を具体的に検討するものです。

平成26年度においては、女子ハンド、ラグビーの部会を設けています。

具体的な検討としましては、女子ハンド部会では、試合会場選定に係る市町村への意向調査及び現地調査、シンボルマークの募集内容等の個別事項を協議しています。

平成27年1月27日には、熊本側で大会開催に係る調査・検討を行う組織として、県、熊本市及び関係団体で構成する2019女子ハンドボール世界選手権大会熊本推進協議会を設立しました。この協議会では、大会の基本理念、大会の概算予算などのほかシンボルマークの作成、試合会場候補地の検討を行うこととしています。

加えて、大会開催に向けた機運の醸成として、平成27年3月、富山県氷見市で開催されました第10回春の全国中学生ハンドボール選手権大会にて周知活動を行いました。

また、6月8日には、さきに御説明いたしました平成26年3月設置の推進本部を改編する形で、くまもと国際スポーツ大会推進本部を設置いたしました。本部会議では、経済界、学校、県民などオール熊本での取り組みを全庁を挙げて取り組んでいくことを確認いたしました。

大会の成功のためには、関係者間の情報共有化が重要ですし、あらかじめ計画に定めた節目、節目の到達点を確認し、改善していく作業が必要となります。このため、これらのことが着実に実行できるよう、市町村及び関係団体に協力いただきながら、段階的に組織の拡充・強化を図ってまいります。

次に、大会の概要について御説明いたします。

主催者は、国際ハンドボール連盟で、この世界選手権は2年に1回開催されています。開催期間は、平成31、2019年11月から12月にかけて、15日間程度の予定となっております。

参加チームは24チーム、試合数は合計で88試合あります。具体的には、まず予選ラウンドとして1グループ6チームを4グループに分け、その総当たり戦で60試合があり、各グループの予選上位4チームが決勝トーナメントに進出します。

決勝トーナメントでは決勝を含めた本戦15

試合及び順位決定戦5試合の合計20試合、また予選敗退チームで行われる順位決定戦の8試合が行われ、合計で88試合となります。

2ページをお願いいたします。

次に、平成27年度の取り組みについて御説明いたします。

本年度は、県、熊本市、県ハンドボール協会、関係団体及び日本ハンドボール協会とともに大会の基本理念を検討し、各種大会の視察・調査を通じて、大会の基本方針の策定に向けた取り組みを推進します。また、大会の認知度向上に向けた活動を展開してまいります。

平成27年度は、2019女子ハンドボール世界選手権大会推進事業として、予算額は2,500万円余となっており、組織委員会の設立、基本方針の検討、デンマーク大会の視察及び大会の広報等を行うこととしております。

本年度のスケジュールについては、既に5月20日からシンボルマークの一般公募を開始しました。この募集、選定手続を通じて、大会の広報も行ってまいりたいと考えています。この募集期間は、7月7日までとなっております。

夏ごろには組織委員会を設立したいと考えており、現在、日本ハンドボール協会と協議し、構成員の検討を行っています。

この組織委員会の運営体制についても、大会開催の準備から終了、開催に至るまでトータルのプロセスの中で、2つの国際スポーツ大会開催の相乗効果を意識し、それが計画段階から発揮できるよう、効率的な運営体制の構築に向けて検討を進めているところです。

この運営体制の具体化に当たっては、関係者それぞれの責任、役割や関係者間の連携を計画当初から意識して、その組織構図を形づくっていくことが重要と考えています。今後、県庁内の体制整備とともに、基本計画、運営計画と熟度を高めていく中で、市町村や競技団体等に協力いただきながら、着実に実

行できる体制を構築してまいりたいと考えています。

なお、このことは、後で御説明いたしますラグビー、オリンピック・パラリンピックについても同様でございます。

また、ことし12月に熊本の前々回大会となるデンマーク大会が開催されます。そこにおいても、その視察等を予定しております。この視察では、会場及び試合運営はもとより、宿泊、輸送、警備、開会地の装飾など調査することとしており、今後の基本方針等の参考としたいと考えております。

なお、県ハンドボール協会、県ラグビー協会と連携し、街頭パレード等の実施により機運醸成を図っていく取り組みも計画していきたいと考えております。

また、年度末には大会の基本方針を策定することとしています。

女子ハンドボール世界選手権大会関係の説明は、以上でございます。

続きまして、ラグビーワールドカップ2019熊本開催関係について御説明いたします。

3ページをお願いいたします。

まず、経緯について御説明いたします。

平成21年7月にラグビーワールドカップ2019の日本開催が決定後、県、熊本市、熊本県ラグビーフットボール協会などが一体となって、招致活動を行いました。

例えば、街頭パレードの実施やフォーラムの開催、さらにはトップリーグでの啓発うちわ配布といった県ラグビー協会等の独自の取り組みなど、県議会を初め県経済界、県民がスクラムを組んでの誘致活動は、組織委員会から高い評価を受けたところです。

10月に開催希望申請、1月の現地視察を経て、ことし3月2日には熊本県、熊本市を含む全国12都市が開催都市として決定されました。

その後、5月12日には、組織委員会と開催都市基本契約書を締結したところです。これ

は契約書と明記していますが、義務の履行に関する詳細条件等は別途定めることとされており、いわば大会開催に当たっての合意書と位置づけられるものでございます。

具体的には業務の定義やその項目が明記されたもので、補充契約または運営計画などにより、別途個別の権利義務関係が固まってくる形となっています。

施設整備等予算を伴うものは、レビューの方向性などの方針が固まってきた段階で適宜御報告し、御意見を伺いながら進めてまいりたいと考えております。

4ページをお願いいたします。

次に、大会の概要について御説明いたします。

主催者はワールドラグビーで、この大会は4年に一度開催されています。開催期間は2019年9月から10月にかけて、約7週間の予定です。

参加チームは20チーム、試合数は合計で48試合あります。具体的には、一般的にはグループという言い方をするんですが、ラグビーにおいてはプールという言い方をいたしておりまして、予選プールとして1プール5チームで、4プールに分けその総当たり戦で40試合があり、各プールの予選上位2チームが決勝トーナメントに進出します。決勝トーナメントでは3位決定戦を含めて8試合があり、予選と合わせて合計48試合になります。

次に、平成27年度の取り組みでございませう。本年度は熊本市、県ラグビーフットボール協会、関係団体とともにラグビーワールドカップ2019組織委員会と協議しながら、開催都市における業務内容、試合会場の運営等の検討や大会の認知度向上に向けた活動を展開することとしております。現在、東京の組織委員会と協議していますが、熊本での試合概要は平成29年・2017年の試合日程の確定後に順次確定していくこととなります。

また、組織委員会からは約40万に及ぶと言

われる来日観戦者について、九州の開催都市である福岡、大分と連携しながら、できるだけ九州に取り込み、これらのインバウンド観光客を、熊本が拠点となり周遊させるように努めるなど、経済波及効果が最大となるよう取り組みを検討していきたいと考えています。

平成27年度はラグビーワールドカップ2019推進事業として、6月補正で6,900万円を予算要求させていただいております。今後、日本開催の前回大会となるイングランド大会において、プロモーションや視察調査などを行うこととしております。

本年度のスケジュールは、7月に仮称ではありますが、熊本推進協議会の設立、本年9月から10月にかけて、前回大会となるイングランド大会が開催されますので、現地においては視察調査やロンドンでのジャパンプロモーションによる出展、熊本においては日本代表戦のパブリックビューイングを行う予定です。

また、女子ハンドボール世界選手権大会とラグビーワールドカップ2019ともに、共催となる熊本市と協調しながら万全の体制で大会が迎えられよう、大会開催に向けて準備を進めていきます。

ラグビーワールドカップ2019熊本開催関係の説明は、以上です。

次に、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会関係について御説明いたします。

5ページをお願いいたします。

まず、経緯を御説明いたします。

国などの関連の動きについても記載しておりますが、県関係の部分を中心に御説明いたします。

推進体制について先ほど御説明しましたとおり、平成26年3月に熊本県東京オリンピック・パラリンピックキャンプ誘致等推進本部を設置し、ことし6月8日に熊本国際スポー

ツ大会推進本部に改編し、誘致段階から実行段階へ歩みを進めることとしました。国際スポーツ大会及びオリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致の成功に向けて、全庁を挙げて取り組んでいくこととしております。

6月1日には、県バドミントン協会とともにインドネシアバドミントン協会へのトップセールスを実施しました。内容としては、県の概要やスポーツキャンプの環境について、県バドミントン協会からは、全国的にも盛んな熊本のバドミントンの状況やインドネシアとのつながりについてプレゼンテーションを行いました。今後とも、お互いの交流の積み重ねを強めていくこととしております。

また、キャンプ誘致を希望する市町村との連携を深め、今後の取り組みを円滑に進めるために、6月15日に市町村に対して説明会を開催しています。内容としては、組織委員会が行う事前キャンプ候補地ガイドへの掲載等についてです。これについては、後ほど御説明いたします。

6ページをお願いいたします。

まず、概要について御説明いたします。

まず、東京オリンピックについてです。

開催時期は、平成32年7月24日から8月9日までで、競技種目は現在決定しているものが、陸上競技、水泳、サッカーなどの28競技となっております。

東京オリンピックでの追加種目については、平成28年8月にリオデジャネイロで開催するIOC総会で決定される見込みです。

次に、東京パラリンピックについてです。開催時期は、東京オリンピック後の8月25日から9月6日の間で、競技種目は陸上競技、水泳、車椅子テニスなどの22競技となっております。

7ページをお願いいたします。

次に、平成27年度の取り組みでござい

ます。本県は(1)のキャンプ誘致と(2)の選手育成で

構成されていますが、観光課からはキャンプ誘致に関することについて御説明いたします。

国内外への情報発信や交流人口の増加など、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催によりもたらされる効果を県内に最大限取り込むため、キャンプ誘致に向けた取り組みを推進いたします。

平成27年度は、オリンピック・パラリンピック誘致推進事業として、予算額は870万円となっており、キャンプ誘致に向けた情報収集、広報活動、招請活動等を行うとともに、キャンプ誘致に主体的に取り組む市町村の活動を支援することとしております。

本年度のスケジュールについては、現在、年度内に組織委員会の事前キャンプ候補地ガイドへの掲載に向けた手続を進めているところです。このガイドに掲載されたものは、来年8月のリオデジャネイロ大会で組織委員会から海外の競技団体等に向けて、日本国内事前キャンプ候補地として紹介されます。この申請は県を通じて行うこととされており、年度末までに行う必要がありますので、市町村及び競技団体の意向をお聞きしながら取りまとめを行ってまいります。

2020東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致関係の説明は以上です。

○溝口幸治委員長 平田体育保健課長。

○平田体育保健課長 体育保健課でございます。

7ページ中段(2)の、選手育成に関することでございます。着座にて説明させていただきます。

本事業は、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに関する選手育成でございます。出場可能性のある本県関係者を集中的に育成し、多くの出場者を生み出すことにより、本県スポーツの振興及び県民幸福

量の増大を図るものです。

体育保健課におきましては、①の東京オリンピックに向けた選手育成を担当しており、昨年度から3,000万円を予算化させていただき、45人を指定し国内外への合宿遠征や医学を活用した効果的なトレーニングに要する経費等を補助しております。本年度の4月にオリンピック実施28競技の競技団体に対し事業説明会を開催し、先日、指定選手の選考委員会を実施し、あす30日には指定書の交付式を行うことといたしております。これを受け、来年2月までの間で競技団体と県体育協会により事業を推進することといたしております。

2020年の東京大会では、より多くの本県関係者が出場することにより、県民の皆様方に元気と活力を与えることができるよう取り組んでまいりたいと考えております。

2020東京オリンピック選手育成事業については、以上でございます。

○溝口幸治委員長 障がい者支援課井上課長。

○井上障がい者支援課長 障がい者支援課でございます。着座にて説明させていただきます。

資料の8ページをお願いいたします。

障がい者支援課におきましては、②の東京パラリンピックに向けた選手の育成・強化を担当しております。

本年度の新規事業として、当初予算に1,500万円を計上しております。今後16人程度の選手を指定し、合宿・遠征費の補助や医学を活用した効果的なトレーニングの提供などを行うこととしております。

スケジュールといたしましては、先週末から募集を開始いたしましたが、7月中旬までの間に障がい者スポーツ競技団体や学校等から選手を推薦していただき、その後、選考委

員会で選考を行い、8月中には選手の指定を行う予定にしております。そして来年3月までの間に熊本県障がい者スポーツ文化協会や各種競技団体において事業を実施することとしております。2020年の東京大会に、より多くの本県関係者が出場できるよう取り組んでまいります。

障がい者支援課は、以上でございます。

○溝口幸治委員長 満原観光課長。

○満原観光課長 国際スポーツ大会を契機とした地域活性化について御説明いたします。

資料の9ページをお願いいたします。

これまで御説明しました3つの審議事項に共通する国際スポーツ大会を契機とした地域活性化関係について、御説明いたします。

このイメージ図は、国際スポーツ大会や関連の事業を一過性のイベントで終わらせることなく、国際スポーツの力を熊本の幸せ実感づくりをさらに加速するために活用したい、そのためには大会の成功はもちろん、次世代に引き継がれる有形無形の熊本の財産いわゆるレガシーの形成が重要と考えております。

具体的には、行政と経済界、学校、県民等が一体となって開催準備及び円滑な運営、さまざまな資源の磨き上げ等の検討を行っていくこととします。これをレガシープログラムとして取りまとめていくことを予定しております。そして、各分野での実現を通して、それぞれの分野で大会の成果として顕在化していくとともに、次世代への有形無形の財産としての継承につながっていくことを表しています。

熊本の財産としてのイメージは、次の10ページをごらんください。

例として挙げておりますが、4つの分野で例えばスポーツ振興では競技力の向上、競技人口の増加、地域振興では国際人の育成、観光振興では観光客の増加、受け入れ体制の整

備などのほか、健康福祉ではスポーツによる健康増進等が上げられます。これは、世界トップレベルのスポーツパフォーマンスに触れることで、競技力の向上や競技人口の増加、スポーツに親しむ県民の増加が図られるということであり、また熊本が誇る歴史・文化、地域資源の磨き上げや、熊本ファンにつながるための広報の展開等により外国人旅行者の誘致が進めば、県民の国際感覚の醸成が図られ、国際人の育成につながることを目指しているということです。

そして9ページにお戻りいただき、見出しをごらんください。

これらの事業は、先ほど説明いたしましたレガシープログラムとして取りまとめていくため、ハンドボール、ラグビー、オリンピック・パラリンピックそれぞれの頭文字を取り、今後は「くまもとハロープログラム」として総称していきたいと考えています。

11ページをお願いいたします。

先ほどもそれぞれの項目の中で説明いたしましたが、今後のスケジュールについて、この表を見ながら参考までに御説明いたします。

まず、女子ハンドボール世界選手権大会については、現在5月からシンボルマークを公募し、広報をあわせて行うということで大会の盛り上げを図るとともに、この夏ごろには組織委員会の設立を予定しております。その準備を、ただいま進めております。また12月には、デンマーク大会の視察を行う予定です。今後策定する基本計画、実施計画などに先がけて、年度内には大会運営に係る基本方針等を作成する予定としております。

その後、平成28年度に基本計画、平成29年度に実施計画を策定し、プレ大会等を通じて計画及び運営体制をテスト、評価、改善していきながら、より実効性の高いものにし、本番に臨むこととしております。これにつきましては、ラグビーについても同様でございます。

す。

次に、ラグビーワールドカップ2019について御説明いたします。

去る5月に基本契約を締結し、9月のイングランド大会における現地視察、熊本プロモーション等について6月補正に上程している状況です。

今後、開催都市組織委員会の設置、試合運営計画の策定等について東京の組織委員会と協議していくこととしています。なお、開催都市組織委員会の設置時期は未定ですが、遅くとも平成29年ごろまでには設置する予定です。

また、イングランド大会終了後には、個別分野ごとの計画を策定していきながら、平成29年度の試合日程の決定により大会の概要が固まってきた段階で、運営計画を策定していくこととしております。試合カードが決定すると、より具体性が増し、ハンドと同様に大会前にテストを繰り返しながら、運営計画を更新し、本番に向けて着実に準備を進めていくこととしています。

次に、東京オリンピック・パラリンピックキャンプ誘致について御説明いたします。

平成28年8月のリオ大会までは誘致に向けた準備段階であり、事前キャンプ候補地ガイドへ掲載に向けて、平成27年度は市町村説明会、市長町村長等への意向調査、組織委員会への申請に向けて取り組みます。また、リオ大会以後は公式な誘致活動を展開し、平成30年度はキャンプ地の受け入れ環境の整備に取りかかることを予定しています。

最後に、熊本国際スポーツ大会推進本部についてです。

6月に庁内の推進本部を立ち上げましたが、今後は熊本市を初め希望する市町村や競技団体及び関係団体と連携した運営体制を整備し、大会の成功及び有形無形の熊本の財産づくり、いわゆるレガシーの構築に向けて取り組んでいくこととしています。そのための

運営体制は、段階的に強化していくこととしています。前回の97年男子世界ハンドボール選手権大会の際には、県、熊本市、県ハンドボール協会など大変大がかりな組織で大会運営に臨みました。しかし、今回は、2018年にはハンドボールとラグビーのセットマッチ及びプレ大会などが、2019年にはハンドボールとラグビーの本大会、オリンピック・パラリンピックのプレ大会事前キャンプなどが、2020年にはオリンピック・パラリンピックの直前キャンプが開催される予定です。少なくとも3カ年にわたり大きな国際スポーツイベントが続くこととなり、単純に考えれば97年の男子ハンド以上の運営体制を整備していく必要があると思われます。それぞれの大会で相乗効果が発揮できるよう、連携できるものは何かを早急に見極めながら経済界を初め市町村や関係団体、学校、県民等が一体となって準備を進め、大会を形づくっていくことができるよう、計画に取り組んでまいります。

以上です。御審議のほど、よろしく願います。

○溝口幸治委員長 以上で説明が終わりましたので、議題ごとに質疑に入りたいと思います。

まず、2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件について、何かありませんか。

○荒木章博委員 ハンドボールの場合は、前回、私も県議の1期生だったんですけどもね。ハンドボールは主要会場に、パークドームに見に行ったわけですけどもね。

これはデンマーク、ドイツと立て続けにあって日本・熊本という開催になるわけですけども、大体、県の負担はどのくらい予算が計上されるのか。それとあわせてIHFからのどのくらいの補助があっているのか。

それと試合会場ですね、試合会場は実際決

定をしているのか。前回はパークドームと市の総合体育館、八代、山鹿市というふうに会場があったと思うんですね。できれば県内いっぱいにおたって、このハンドボールの試合は広げていって、県内で盛り上げていく、県の市町村も協力をする、県南、県北、市内、そういった中で主要会場はパークドームになるかもしれませんが、そういったことの考え方をまずお知らせいただきたいと思います。

○満原観光課長 まず開催経費等の県の負担等でございますけれども、さきに19億円という数値が日本ハンドボール協会から出されておりますが、これは誘致段階での大まかな概算の数字でございました。後ほど試合会場についての考え方を申し上げますけれども、各地域との具体的な箇所決定がまずできて、なおかつ大会基準というのがございます。例えば、試合会場としまして必要な基準としてメイン会場は8,000人、それから設定温度が18度から23度というふうに決められておまして、そうしますと、前回97年がハンドボールがあったんですけども、それは5月でございましたので、開催時期が11月から12月にかけてということになりますと、仮設の暖房等も必要となってきます。そういったものも含めながらこれから検討していく形になってまいりますので、現在のところ幾らぐらい計上するかというのは、なかなか申し上げにくいところでございます。

参考までに申し上げますと、前回97年の男子ハンドボール大会のときは約23億、県の負担が9億5,000万ほどであったかと思いません。

それから試合会場についてでございますけれども、試合会場につきましてはこれからということが正直なところです。前回のパークドームそれから熊本市総合体育館、八代市総合体育館、山鹿市総合体育館という形で行っ

たわけですけども、例えばパークドームにつきましても、先ほど申しあげました暖房費とかそういったもの等を含めると、男子大会のとき以上のものがかかたりします。そういったものを含めて、市町村などの意向、それも兼ねまして私どもきちっと意見を聞きながら決めてまいりたいということで、現在のところはまだ、今後決定していくという形になります。

また、ハンドボールにつきましては、デンマーク大会がございますので、そういった視察等も含めて、できる限りの情報等を収集しまして、それに向けて絞り込んでいくという作業になるかと思えます。以上でございます。

○荒木章博委員 熊本市は、たしかあの当時は8億出したと思うんですね。

だから、要するに市町村の負担も実際これは出てくるんですか。まず、それをお尋ねします。

○満原観光課長 開催市、前回においても負担をいただく、例えば人を出すとか、そういったものもありますし、熊本市等については負担も前回もいただいておりますので。

ただ、今後はどういうふうな形でどの程度の負担をするかといったら、今後打ち合わせしながら決定していくこととなると思えます。

○荒木章博委員 いや私が今聞いたのは、市は8億だったと思うんですけども、それは確認事項ですよ。いかがですか。

○満原観光課長 前回大会に、熊本市負担金は約8億負担いただいております。

○荒木章博委員 それで、入場料収入というのが、これは当然前回と比べて要るだろうと

思うんですよね。それで、その入場料というのは、ハンドボールの場合はどっちかというとなんか人気がないから高くは取れないと思うんですよね。前はどういうふうな入場料の取り方、そしてどのくらいの収入があったか、そこをちょっとお尋ねしたい。

○満原観光課長 前回大会、男子ハンドボール大会のときの収入は約1億6,300万収入がっております。試合でのチケットですけれども、予選リーグで1,000円、前売券で1,000円、当日券1,500円、それから決勝トーナメント以降は前売券3,000円、あと当日券4,500円だったかと記憶しております。以上でございます。

○荒木章博委員 非常に、入場料が1億6,000万ということは、割と少ないですね。

そういったところで、やっぱり告知をしっかりやって入場料収入を上げていく。それと、それ以外の収入となるのは、IHFからの補助、その他以外はないわけですか。

○満原観光課長 各企業等からの協賛金もいただくことになるかと思えます。ただ、それは現時点では、これからのことでございまして幾らという形では申し上げることはできないかと思えますが。

○荒木章博委員 わかりました。

では、今から日本協会の補助もありますでしょうけれども、デンマーク、ドイツ大会それから熊本大会、もうこれは実際、熊本は経験していますからね、そのノウハウをしっかり。非常に、前回のときも私もほとんどの試合見ていきましてね、3位決定戦そして決勝戦ということで、3位決定戦のときはちょっと私もデモンストレーションにも出させていたんですけどもね、そういう思い出

があるんですけども、ぜひ成功するためにも緻密な計画そして予算ですね、当該会場でやるところの負担金とか、そういうのも確実なものにして、4会場まだ決まってないということですから、それをきちんと決めて、やっぱり予算化していければなというふうに思っております。以上です。

○溝口幸治委員長 ほかにありませんか。

○高野洋介委員 ハンドボールですね、私、恥ずかしながらハンドボールのルールがわかりません。まず何人ですのかもわからぬという、もう無知の状態からハンドボールを今から勉強していかなきゃいけないんですけど、多分一般県民の感覚として、割と私のような感覚の人が多いいんじゃないかなと思っているんですよ。

で、今後入場収入を上げるためには、やっぱりハンドボールに興味を持ってもらえる人というのをどんどんふやしていかなければいけない。幸いにしてまだ期間がありますから、その周知はできるということなんですけど、例えば小学校、中学校、高校で授業の一環としてハンドボールを使って、ハンドボールの競技を教えるような工夫をされるのか。これまた次のラグビーにもかかってきますけれども、ラグビーもしかりですね。やっぱりハンドボールというのは余りメジャーなスポーツではないんですけど、やっぱりここで、いろんな会場があって、それぞれ熊本県民が足を運びやすくする、そしてそこで割と会場がいっぱいになったら、やっぱり国際的には熊本はしっかり取り組んでいるんだなというような評価もいただけるというふうには思うんですけど、先ほど言ったように、例えば学校とかそういう授業の一環として教えるつもりはあるのかなというのを教育委員会にお尋ねしたいんですけども。

○平田体育保健課長 ハンドボールの授業につきましても、各小学校、中学校、高校とか、ハンドボールということではございませんで、ゴール型競技という中の1つとしてハンドボールもございまして、各学校が実態に応じて実施をしているところでございます。

今後この大会を盛り上げるために、いろいろな取り組みが必要になってくるかと思えます。男子ハンドボールのときにも各スポーツ教室あたりを開催しまして、オムロンの選手が教室等を巡回したりとかもやっておりますし、また、ことしの指導者を集めた実技講習会の中でもハンドボール競技を取り上げてやったところでございます。今後この大会に向けまして、授業の中での活用、そういったことも検討してまいりたいと思っております。

○高野洋介委員 全部の学校で1回じゃなくて、ハンドボールというのをぜひ教えてもらって、せっかく国際的な最高レベルの大会があるので、そこに小さい子どもから興味を持たせると、この競技人口自体もふえると思うんですよ。ですからそこをぜひ。平田課長は優秀な課長でございますのでできると思えますので、ぜひ今年度中までしっかり教育委員会としての方針を固めて、するならば、しないならしないというのをぜひ前向きな取り組みをよろしく願いいたします。以上です。

○溝口幸治委員長 ほかにありませんか。

○氷室雄一郎委員 今回の御意見とちょっと関連するんですけども、この大会の認知度向上に向けた取り組みを展開するということを記載がされております。5月の20日からシンボルマークの募集は始まっておると思うんですが、もう7月の7日までですかね、募集状況はどうなっていますか。

○満原観光課長 シンボルマークにつきましては、先週26日段階で21個の応募がっております。

○氷室雄一郎委員 今、御意見もございました。なかなかハンドボール自体の認知度といえますかね、だから21件ということですかね。あとわずかでございますけれども、余り誘致活動をやっておられる割には少ないんじゃないかと思えますけど、この辺もしっかり、最初の取りかかりの段階でございますので、アピールをしていただきたいと思います。

もう1点。

○溝口幸治委員長 はい。

○氷室雄一郎委員 それからデンマーク大会があるんですけども、ここは職員を派遣されると思うんですけども、大体どのくらいの……。概要だけ、ちょっと御説明してください。

○満原観光課長 デンマーク大会につきましては、1チーム8名の3班体制で開幕前、大会期間中、閉幕後視察させていただきたいということで450万円ほど、県負担が450万、県・市合わせて900万円ぐらいを予算計上させていただいております。

○溝口幸治委員長 いいですか。

ほかにありませんか。

○早田順一委員 ハンドボールは、特に女子は山鹿にオムロンがございまして、山鹿では非常に盛り上がっているというか、試合もよくありますし、感謝祭も毎年行われておって、山鹿に住んでいると割とハンドボールというのは知っているんですけども、やっぱり一歩外に出ると、高野先生がおっしゃったようにマイナーのほうじゃないかなという思い

はあります。

オリンピックとかパラリンピックにすれば自分の好きな種目がありますので見たりとかするんでしょうけども、こういったハンドボールに関しましては非常に、1つのスポーツでありますので興味がないとやっぱりなかなか見ないということがあります。

その強化のことなんですけども、やはりその選手の中に熊本県出身、もしくは、例えば企業があるオムロンの選手が、やっぱり1人でも2人でも多く出てもらうことが、また盛り上がりもかなり違ってくると思うんですよ。

前回の男子の大会もたしか1人か2人いらっしやったということですので、その辺でも多分プラスアルファで盛り上がったんだろうと思いますので、ぜひ強化のほうも、まあお金をかければいいのかないというわけでもないのかなという思いもありますが、医学的とかそういう面でもされるということですので、ぜひ、余り言う選手にプレッシャーがかかりますのであれなんですけど、ぜひそういう思いで予算もしっかりと組んでいただきたいというふうに思います。

それから、部長の御挨拶の中で、競技団体、企業、学校にとどまらず広く県民の皆さん方とも連携しということで、これから連携については計画を立てていかれると思いますけども、現時点で特に県民の皆さん方と連携する何かアイデアとか現時点であられるでしょうか。

○満原観光課長 これから検討していくということといたしておりますけれども、例えば97年の男子大会のときは一国一校運動という形で、各出場国について学校のほうと接触させながら盛り上げていくことといたしておりました。やはり外国から来られる、外国の方は選手だけではなくて、世界からお客様がおいでになるということもありますので、そう

いった受け入れ環境等も民間の方々、宿泊施設の方とか、そういった方々とも連携しながらやっていきたいというふうに考えております。以上です。

○早田順一委員 ぜひ、そういったアイデア募集というか、広くアイデアを募集していただいて、特にハンドボールとあとのラグビーは、ぜひ募集していただきたい、アイデア募集ですね、よろしくお願いします。

○濱田大造委員 ちょっと基礎的なことなんですけど、競技人口が熊本県に一体何人いて、日本に何人いて世界的には何人規模いて、そして世界でもハンドボールが盛んな地域とそうじゃないところがあると思うんですね。では一体、何をもって成功とするのか。例えばヨーロッパの国の人々が予測で何人来てくれることを目標としているのか、熊本県の地元の人々がどれだけ見に行くのか、県外からどれだけ来るのかと、そういうのはまだないとは思いますが、もっとわかりやすく数で明示していただければ、もっと膨らみのある議論ができるんじゃないかなと思います。

○満原観光課長 なかなか現時点で数字というのは難しいんですが、まずハンドボールの競技人口でございまして、県内においては平成25年、済みません県内だけしか資料はないんですけども、約3,383名という形に登録者となっております。前回大会が、観客動員数が29万人という形になっております。

今回、男子と女子の違いは、チーム数は一緒の24チームなんですけども、男子大会のときは80試合、女子大会は88試合となって、8試合多うございます。これは、予選リーグ敗退チームが順位決定戦を行うということで8試合多くなっているんですけども、その分も含めて、やはり男子と女子どちらが人気があるか私よ

くわからないんですけども、やっぱり男子大会並みには少なくとも観客動員ができるように、世界各国からお客様が来るように周知活動を進めてまいりたいと思います。以上です。

○溝口幸治委員長 いいですか。ほかにありませんか。

○荒木章博委員 実際、前回の大会のときに、ここに会場に見に行ったり、いろいろお手伝いされた方というのは、何人ぐらいいらっしゃるでしょうか、ここの中に。（「見に行ったのは」と呼ぶ者あり）見に行ったのは、いい。では、その中のスタッフで入られた方は。3人、4人。やっぱり、できるだけ、やっぱりそういう人たちが感じたものがあると思うんですよ。私たちも感じたものがありますので、そういうところをやっぱり生かして行かれると、その人たちが中心になって。この委員会だけではなくて、よその課もおられると思うんですよ、そういう手伝った方たち、前田さんを先頭にしてですね、当時の。だから、そういうところもノウハウを使っていくと、海外に行って現地を見るだけではなくて、前回の反省点も幾つかあると思いますので、それを取り上げていただければなど。

終わります。

○溝口幸治委員長 ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件について、質疑を受け付けます。

○荒木章博委員 世界大会規模のやつを取るということで、スタジアムは初めて聞かれる方もたくさんいらっしゃると思うんで、6万人にするか3万2,000人にするかと、あのとき熊本県は迷ったんですよ、実際。そのときに知事が私を呼ばれて、3万のほうにしたい。では、そうなると世界大会規模は取れま

せんよと私は述べたんですけども、国家来賓の最高の人を呼ぶのに、阿蘇山の見える方向に聖火台がある方向ですということの説明したいということでもありますので、KKウイング、うまかな・よかなのスタジアム、ちょっと振ってあるんですよ。だから見られたのは20秒ぐらいだったんですけど、その後のトランプのマークでは、世界のチケット券が取れませんよとまで言ったんですけども、みつば・ダイヤ・ハートでやった。だから24年に、平成24年の12月議会で、それは撤廃しなければ、もう世界大会は熊本では取れませんよとまで私は申し上げた。言って、今回1,600万ですか、で改修していただいたということで、皆さんの御努力でラグビーが取れた。しかし、これは3万2,000では、要するにカテゴリーのチームでも最下位。なかなか難しいと。何でかと言うと、東北の1万5,000の会場でも、やっぱり東北震災の子どもたちに見せてやろうという配慮もあるだろうし、そして花園ラグビー場がありますね、大阪のラグビー場があります、あのラグビー場がありますでしょう。だから大変に厳しい状況下にあるんですよ、熊本は。そうしますと、収容人数では——まあ質疑で言いましたけど、きちんと言えなかったもんですから、時間の都合で——8番目なんですよ。しかし、9番目、10番目なんですよ、今。12会場ですから。

そうなりますと、Aが4万人以上、Bが2万人以上という、このエリアの中にはなかなか難しくなってくるということで、どういうふうに、この前、2、3日前に組織委員会が、ラグビーの組織委員会が来た。どういう判断があったのか、ラグビー協会のほうで、組織委員会のほうであったのか。もうこれでいいぞとか、もし8,000人ふやすのにベンチシートにするのか、きちんとしたシートにするのか、そういう許可をハンドボール協会はどういうふうに意見が出たのか、それをちょっと

お尋ねしたいと思います。

○満原観光課長 まずカテゴリーA、B、Cという表現がなかなかなじみがないものですから、まずそれから簡単ですが、御説明いたします。

カテゴリーAと申しますのは、上位ランク10位以内のチーム、世界ランキング10位以内のチーム同士、もしくは開催国が行う試合についてカテゴリーAといたしまして、ラグビーワールドカップの組織委員会のほうとしては、それは4万人以上の規模の会場で行うということとしております。カテゴリーBが、10位以内のチームとそれ以下のチームの試合。カテゴリーCが11位以下同士の試合という形になっておりまして、カテゴリーBが2万人以上、カテゴリーCが1万5,000人以上という基準になっています。

本県につきましては、今委員がお話しになりましたように3万2,000人という形になっています。

で、組織委員会のほうから調査に参りまして、意見交換をした。これはまだ精査ではございませんので、これからどういうふうな形で、例えば4万人以上にするためにはどうすればいいとか、そういったものは今後の調査という形になっております。できる限りいい試合を持ってきたいというのがありますので、ただ、その改修等に幾らかかるのかとか、そういったものもございまして、そういったものを含めながら今後検討していくという形になるかと思っております。以上でございませぬ。

○荒木章博委員 ミスチルのコンサートがあったときは、要するに3万2,000人は、みつば・ダイヤ・ハートを仮設の番号で、A、B、Cでやって全国販売をした。しかし、この経済効果は、新聞にも書いてありますけども、8月のコンサートで約5億円の経済効果

があった、そういうふうなうたってあります。

今から、もちろんラグビーもですけど、サッカーを含めて、国際大会を取る場合には4万人は常設しなければ私は取れないと思うんですよね。

そういった中で2年後にカードとか決まってくるから、それまでに、やっぱりどういうふうにしてやるのかということを県が方針を立てなければ僕はいかぬと思うんですよ、きちんとした方針を。だから、きちんとした方針をとったからこそ、ワールドカップの世界大会が取れたわけでしょう、今回は。アルファベットに直したから。だから今回も1年間工事にはかかるんです、最低。そうしますとサッカーの試合とか陸上の試合とか、あらゆる高校生のスポーツイベントもKKウイング、うまかな・よかなスタジアムに入りますから、きちんとした県が早急に方針を立てて、例えば2年後の何月何日から何日の1年間常設をしますとか仮設をしますとか、やっぱり言うのをきちんとしなければ、実際のやつはできないと思うんですよ、大会は持ってこれないと思う。だからラグビーだけの大会で終わるのか、それとも今後の国際大会を取っていくのか、商工労働部長にお尋ねします。

○高口商工観光労働部長 今後の国際スポーツ大会をどう取っていくのかということについては、現在いろいろ検討はさせていただいております。先般、一般質問でも答弁させていただきましたように、こういった国際スポーツ大会というのは、県民の皆様方、子どもたちも含めて、その子どもたちがいかに、何というか、あつてよかったなと思うことが大事だと思っておりますので、こういった、今すぐ県民の幸福量の最大化の観点と、それからそのかかる費用等々勘案しながら、これから私もしっかり検討してまいりたいというふう

に考えております。

○荒木章博委員 では、この件については最後にですね。コンサートも含めて、非常にこのKK、うまかな・よかなスタジアムは使いにくいということで、今回整備をされた。そしてまた、それには5億円の経済効果があった。だから1つの世界大会とかコンサートとか含めて、きちんとしたその5億計上があったということは、知事は本会議場で答えられているんですよ。ですね。だから、どういう経済効果を生むのか、熊本に。だから日韓のサッカーのときは大分会場と熊本会場だったんだけど、3万2,000人に落としたわけですよ。6万人つくれば、日本サッカー協会はゴーサインが出ていたんですよ。しかし、そのときに知事を取り巻くそのメンバーが、世界大会なんか、ワールドカップのというふうなことを言うもんだから、こんな結果になったんですよ。だから、今部長判断ではできないでしょうけど、やっぱり先がけてこの世界大会を取っていくのか、今後あらゆる、サッカーも含めて世界大会を取っていくのか、そういったものをやっぱりきちんとしたものを持って行って、今後の、今、子どもたちに夢の思いとか、そういうものを持っていくためにも、きちんとした経済効果のあり方をとっていかないと、予算というのは出せない、税金ですから。それをきちんとしていただきたいということで、終わります。

○溝口幸治委員長 ほかにありませんか。

○西聖一委員 施設の改修とあわせて会場の周辺整備も当然入ってくると思うんですけど、やっぱり駐車場の問題が一番大きいかなと感じております。特にテニスコートの横の一番大きい駐車場ですか、入るときは時間かけて入りますけれども、帰りが終わったら3時間ぐらいやっぱり出るのにかかっています

よね。一番北側の道路から抜ければいいとみんな思っているんですけど、これについては土木部のほうからのり面が高過ぎるとか、警察のほうからは規制上難しいという話は聞いていますけども、この回の大会を契機にぜひともそこら辺を改修して速やかに撤収できるような形で、あそこの駐車場の整備をしてもらったと思うんですけど、いかがでしょうか。

○緒方都市計画課審議員 都市計画課でございます。

昨年度、西委員がおっしゃいました駐車場につきまして、ロアツソ戦の渋滞対策会議というのを2回開きました。その中でメイン駐車場でございますけれども、ラインを引き直そうということで、ラインをまず引き直ささせていただいております。その結果、793台を863台に一応ふやしながら、出入口の渋滞の一番の問題は、周辺道路とかそういう問題でなくて出入口の問題だということで、一応話をしまして、出入口をわかりやすくする中で、菊陽方面に黄色のラインで導いて、そして国体道路方面に青色のラインで、間違いないように、出るときにわかりやすいようにラインを引き直しております。

その結果、今年度に入りまして一応メイン駐車場からの出入りについては円滑に出ているような状況にはなっているところでございます。

○西聖一委員 そんな話じゃないと思うんです。きのうもロアツソの試合が終わった後、あそこの撤収時がどれくらいあるかといいますかね、終わってから2時間、3時間という話はよく出ますけども、いかがですか。

○緒方都市計画課審議員 済みません、きのうの件についてはちょっと聞いていません。

○西聖一委員 多分、大分行っている方は多いと思いますよ。

○溝口幸治委員長 じゃ、課題があるということなので、この委員会はまだ今から続いていきますので、そこを西委員が指摘されたことを深く踏まえて、きのうのロアツツのことでか今後のことも踏まえて、そこは課題解決に向けて今後のやっていくということで。

はい、ほかにございませんか。

○濱田大造委員 女子ハンドボールでも共通のことだと思うんですけど、キャンプ地として熊本を各国代表が選んでくれたら非常に盛り上がると思うんですね。思い入れも、県民もどこの国が……（「今ワールドカップですよ」と呼ぶ者あり）ワールドカップですよ、ラグビーも一緒ですけどね。キャンプ地として熊本を選んでくれる国の目星とか、もう、大体でいいんですけど、そういうのはあるんですか。

○満原観光課長 キャンプ地につきましては、その誘致活動についてはこれからでございます。ただ、市町村の意向等につきまして、今週中にまず出していただいて、それから各自治体を回って市町村長等の方々の御意向を伺うという準備を始めます。

それ以降いろんな動きを、例えば組織委員会等のガイドに載せたりとかいろいろな努力をいたす中で、やはりいろんな県出身の方々に対して働きかけるというのがございますし、こちらとしてはラグビーの開催地、試合の開催地になりますので、そういったつてを確実に利用しながらやっていくことになるかと思えます。現時点では、ございません。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○重村栄委員 質問とか要望じゃないんです

けど、お願いなんですけど、ハンドボールの認知度が低いんですけど、ラグビーも余り認知度は高いスポーツじゃなくてマイナーなスポーツなんで、先ほどからいろんな意見交換あってますけど、ラグビーなんですよ、ラグビーとおっしゃられた結構、名前すら正確じゃないケースが結構多いので、その辺からまず認知度を高めていただきたいなというのを、これは委員の皆さん方にも執行部の皆さん方にもお願いしておきたいと思えます。

多分、今度ワールドカップあるときには、県内の高校を卒業した人がジャパンの候補として今名前が上がってますので、私の地元は非常に盛り上がる可能性あるんですけども、ただ認知度が非常に低いんですよ、いずれにしても。ラグビーをやっているところは認知度あるけど、そうじゃないところは認知度がないというのが現実なんで、やっぱり認知度をどう上げるかというのは、さっきのハンドボールも含めて、これはやっぱりある面では学校の中で広げることがまず一番大きいかなという気はしますので、そういった面で教育委員会あたりも含めて、最近ボールゲームいろんな方でされていますけども、そういった中である程度、今回はハンドボール、ラグビー、こういったところに少し力を入れるとか、そういったメリハリをきかせたことが必要になってくるんじゃないかなという気がしますので、その辺も頭に入れて取り組んでいただければと思えます。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 なければ、次2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について質疑を受け付けます。質疑はありませんか。

○荒木章博委員 今も出たんですけど、オリンピック・パラリンピックのキャンプ地の誘

致ということ。先般インドネシアに急遽対応で皆さん方、県職13名、ほか経済界も行かれましたけれども、年に1回インドネシアカップというのが実際開催され、県の協会、バドミントンの協会、会員、余り盛り上がってなかったんですよ。そういった中で、いきなりインドネシアに行って、協会役員3人を連れて行って交渉されたということなんですね。

インドネシアは、秋田、神奈川、静岡、熊本、4つが希望して、秋田の知事が12月に行っているんですよ、インドネシアに。インドネシアの会長に会っているんです。それだもんだから熊本も負けちゃならぬということで、一同ではあつと行かれたわけですよ。

そういった中で、やっぱりきちんとしたものをつかみきるためには、手段としては、今私はまず第一に、ベルギーという国が日韓サッカーのときに熊本にキャンプしたんですよ。そして知事、市長を初め熊本県の代表団20名を御招待されたんです。知事、市長はただだったけど、私は5万8,000円払ろたけど。それでフィリップ皇太子の隣の席に私たちは置かせていただいた。そしてお言葉もいただいて、熊本でキャンプありがとう。そしてその皇太子はフィリップ殿下は今度国王になられた、亡くなられたから前国王が。だから、そういうののタイプですよ、サッカーの。それと天皇家で一番近いんですから、ベルギー家というのは。イギリスを凌ぐ王室ですから。その後は天皇陛下と食事をされたりとか、されていましたが。それで私たちはジェット飛行機がチャーター機が来たから、迎えまで行きました。だから、そういう何ちゅうか戦略というか、そういうのはお持ちであるのか。

もう一つはモンゴルの大使に電話入れました。きょうの委員会があるから、2日前の夜の11時ごろ電話入れまして、出られました。公使が出られて、公使にも電話をやりまして

ね。そして今、熊本にどうですか、モンゴルは非常に強いのは、金メダルを持っているのは柔道とレスリングなんです。それに相撲は入りませんが、相撲の人たちもだあつと応援に行きますよ。だから「どうですか」と話をしたら、もう実際3カ国、4カ国申し入れがきていますと、公式文書で。そして、その中に、そこを熊本がもし取るとするならば、それに凌ぐ政策とか予算を出してくれと言うんですよ、公式に。そうすると、7月、8月はみんな休みで、大使たちは全部ふるさとに帰ります。ですから、もう最終版ですよと言っているわけだ。そういうところのノウハウは、誰かがやらなきゃいかんでしょう。過去にあった、熊本にキャンプしたところとのコンセンサス、そのとき予算を幾ら使ったのか。今後そういうところを取っていくには、ただよその県の知事が行ったから、インドネシアに負けずにはあつと行っても、4カ月、5カ月おくれてますよ。だから、やっぱりそういうところをどういうふうに考えていくのか、本当にキャンプを取ろうと思うなら。子どもたちに夢と感動を、この試合を、要するに熊本で本試合の前にいるんなデモンストレーションマッチをやるには、やっぱりどういった経済効果が生まれるのか、どういう子どもたちに夢と幸福量が渡せるのか。そういうのは認識されていますか。お尋ねします。

○満原観光課長 キャンプ誘致につきまして、現段階でははっきり動いているというのは、6月1日に行きましたインドネシアだけでございます。キャンプ誘致の主な手段としては、選手などへのアプローチというのがあってるんでしょうけども、やはりキーパーソンをつかみ取るというのは確かに戦略としては大事なことかと思えます。その点でインドネシアにおきましては、県出身の方がインドネシアで結構高い位置におられまして、その御紹介で参りました。その際に、私たちも知りま

せんでしたけど、各県や市が動いているという情報の情報を取っております。

キャンプ誘致につきましては、来年のリオオリンピック後、これからスタートするというのはありますけども、ただ水面下でいろいろな動きがございますので、そういった情報を取ることで、それから実際にキャンプを誘致したいという市町村等の意向もきちんと把握しながらやっていきたいというふうに考えております。

○荒木章博委員 確かにわかります。ただ、もう後半戦です。福岡は国自体を持っていきます。もう全く後半戦。サッカーの、この前熊本でキャンプしたヴィルモツ選手は、今監督ですよ。ベルギーチームの監督ですよ。何で、あれだけのパイプがあるのに、やはりそういう人たちは歩まんで行かないんですか。だから競技団体だけ、市町村だけということではなくて、やっぱり友好協会があるわけでしょう、いろんな友好協会が、アメリカとの協会、フランスとの協会。だから自分で自慢して言うわけじゃないけど、私はフランスと、昨年フランスとイタリアとスペインと総領事と大使とお願いしてきました。しかし、もういち早くよそは動いています。現実ですよ、それが。だから3流、4流の競技とか、競技と言ったら失礼だけれども、知らない競技の国を持ってくるよりも、Aクラスのチームを持ってくると、この前のベルギーみたいに。だからベルギーに行ったじゃないですか、議員団で、お願いに。サッカー協会まで行きましたよ、私も。そういう議会を動かせるような姿勢をとらなければだめでしょう、国に対しても。ただ、私たち議会が行ったときには、ベルギーは負けたんですよ。しかしクロアチアとして今度は2位決定戦で2位で勝ったから、熊本とはそういう議会もこれだけ友好協会もできてきたから、その御恩返しをするためにということで熊本にキャン

プしたんです。だから熊本で試合をやって、全日空で行って、そして全日空で、試合終わって帰ってきた、熊本へ。だから皇太子が、アルファロメオに乗って、飛行機の中でアルファロメオを入れてやっぱりパーティーがあったんですよ。だから、やっぱりそんな自慢して言うんじゃないで、そういう積極的で、あなたたちだけでやろうと思うから間違うんです。協会があり。だから例えばモンゴルのあのバドミントンを指導しているのは、インドネシア語がべらべらなんです。インドネシアが一番深いんです。しかし、そういうのを無視しているじゃないですか。だから本当に身のあることをやらないと。本会議場でやりますけど、身のあることをやらないと、ただね夢と感動をと、委員会をつくって今から協議されていくでしょうけど、やっぱりきちんとしたこの委員会に、そして成果を出すようにやっぱやっていただきたいと思ひまして、終わります。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○西聖一委員 誘致の件で、またバドミントンの話をします。荒木委員が一番詳しいんですけども、実はモンゴルバドミントン協会は、もう熊本にキャンプ誘致を申請していますよね。そのとき私も仲立ちしましたけど、知事表敬もして、練習も会場もお世話になりますということで知事も了解している事項ですけど、全然これ出てきてないというのがあります。ほかの団体もあると思うんですよ、細々かもしれませんが期待というものもあると思うんです。そこら辺の把握もしっかりしていただきたいなというのと、実際キャンプ誘致といいますけど、大会の直前の1カ月ぐらいに入るのか、モンゴル協会はもう5、6年かけて若い子育成を熊本でやりたいというところもあるわけですから、そこら辺の見極めというか、せつかくいいキャンプ誘

致して引くくってしてしまうと、委員おっしゃったように国と国でやるべきとか協会を通してやるべきとかいろいろ出てくるので、しっかり仕分けをしていかないと大変なことになるし、国と国の差別とか団体の差別をできるはずはないわけですから、そこら辺に一定基準をしっかりと設けてほしいなということが1点と、それから1年間だけ携わった中で感じたのは、練習会場の確保とはすごく難しいですね。メインスタンドとかメイン会場は押さえていますけど、練習会場はなかなか押さえられない状況があります。一般市民、県民が使っている中に割り込めるかという話と、それと利用料金、日本の料金を払える国力を持った国ならいいけども、そうでない国もおるわけですから、そういうところをちゃんと公平にできるのかと。

あともう1点は、これは国の関係ですけどもビザですね。スポーツビザというのがオリンピックに向けて国が多分今から整備していくと思いますけども、このキャンプ誘致のためのビザで来る期間とは限られているので、そこら辺は誘致する側としてはどういうふうにするのかというのはちょっと問題点があるので、十分検討してもらえたらと思います。何かコメントがあれば。

○満原観光課長 委員がおっしゃるとおり、いろんなパターンがあるかと思えます。

キャンプ誘致につきましては、例えば、特にオリ・パラ等につきましては誘致する側の希望する団体も負担等が発生するかと思えます。そういったところも含めて、御意思を確認するという作業を今いたしております。

先ほど、練習会場としての確保というところも、現在その施設を調査いたしております。それも提示できるような形になっております。そういったことも含めて、自治体と連携するということが大事かと思えます。それは、もう十分力を入れてやっていきたいと思

います。以上でございます。

○溝口幸治委員長 ほかにごいませんか。

○松野明美委員 初めて発言をさせていただきます。

私もソウルオリンピックとドイツの世界陸上に出場させていただきました。あれから20年以上たちましたが、今でも競技場に入った瞬間のにおいも忘れることがなく、もう何一つ忘れることはありません。それだけ、やはりオリンピックとか世界陸上また世界大会というのは、それぞれに感動で、本当に忘れることができないものがあるのだなと、しみじみと思っております。私も、成功のために少しでもお役に立てればいいなと思っております。精いっぱい頑張りたいと思っております。

そこで、先ほどの資料にありました、この7ページちょっとお願いします。

これは下のほうに、2020年東京オリンピック選手育成事業ということで3,000万円上がっておりますが、この下から6段目に、合宿遠征や医科学を活用した効果的なトレーニングに要する経費等に伴う補助を行うというのが、大体私も理解をしました。

ただ、次の8ページにあります、真ん中あたりです。2020年東京パラリンピック選手育成強化推進事業で1,500万円上がっておりますが、この次の次の段に合宿遠征費の補助、これはわかります。その次の、医科学を活用した効果的なトレーニングの提供を行うとありますが、本県の持つ優位性が生かせるような具体的な例があるのでしょうか。教えてください。

○井上障がい者支援課長 医科学を活用した効果的なトレーニングということなんですが、例えばメンタル面の強化ですとか、それと競技種目に応じたトレーニングの仕方です

とか、そういったものを専門家の方たちから指導してもらおうというものでございます。

○松野明美委員 それだけということですね。

○井上障がい者支援課長 そういうことですね。それと栄養管理とかですね、そういうことも含めた。

○松野明美委員 ただ、現場の選手の方たちからお聞きしますが、車椅子競技の練習場が非常に少ないと。練習のために県外まで行かなくちゃいけないということで、真っすぐに平坦で安全な道がなかなかないということで、ぜひ県民総合運動公園の先でやったりとか白川の周りであったり、そういう練習の環境をよくしていただけると非常にうれしいということをお聞きしました。やはり練習場がよくなると、一番の人が集まるのはロコミです。指導者から指導者、また選手から選手への、熊本のあそこは非常に車椅子競技の練習ではもってこいよとか、そういうような声を聞くとか絶対、選手たち、指導者は集まります。

ですから、そういう環境整備を、特にそういう車椅子競技の練習場が確保できるような場所を整えていただくと嬉しいなと思っ

ているんですけれども、検討あたりいかがでしょうか。

○井上障がい者支援課長 種目によって、いろいろと練習場所が異なってくると思います。例えば、車椅子でもトラック競技であれば水前寺競技場ですとか、うまかな・よかなスタジアムとか、そういうところになると思いますし、バスケットなどでいえば普通の体育館なんですけど、長嶺にあります身体障がい者、福祉の専門の体育館がございまして。そこで車椅子バスケットですとか卓球ですとか、いろんな種目をなさっていらっしゃいます。

できるだけ一般の体育館などでも、そういった練習ができるような環境が整っていけばいいなというふうには思っております。市町村あたりにも使いやすい環境を整えていただくように働きかけはしてまいりたいと思

います。

○松野明美委員 ぜひ環境整備、練習の場所の確保はぜひお願いしたいと思っ

ています。

もう1件なんですけど、以前、ちょうど1カ月ほど前に私はKUMADAIマグネシウムの視察のことで某会社のほうに視察に行っ

てまいりました。そのときに、ちょうど印象に残っているのが、先端技術でありますKUMADAIマグネシウムを使用した車椅子、レース用の車椅子が置いてありまして、ちょっとさわっていいですか、持っていいですかと言いまして持たせていただきましたときに、もう私のこの体で軽く、片手で持てるように軽かったんですね。お話を聞きますと、機能病院の山本先生と1年ほど前からレース用に

使えないかということで、昨年度がたしか研究段階、今年度から実験段階ということで、実際、機能病院の山本先生が大会とかに出場して、もしもタイムが伸びるとか、よかったらほかの選手に紹介したいなということでした。ぜひ、こういう熊本ならではの先端技術のKUMADAIマグネシウムなどを活用しながら、レース用の車椅子をつくられると、非常に技術を世界にアピールできるような手段の1つではないかなと思っ

ておりますので、ぜひこういうところの検討もお願いしたいと思っ

ています。

（「ちょっと関連してお願いできますか」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 はい。

○重村栄委員 今、松野委員がおっしゃった車椅子、不二ライトメタルが盛んにやっ

ますけど、高口部長は多分御存じのとおりですけど、今、車椅子のロードレースを含めて、軽量化とかということで、スチールとかアルミとかあるいはそそいったもの以外から、そういったものから今、炭素繊維を使ったものをずっと開発していますよね。かなり高額らしいんですけど、それと匹敵するような価値があるのかなど。KUMADAI マグネシウムは非常に軽いですよ、私も知っていますけど。たまたま私の知り合いが開発にかかわっているんですけども、熊本県内の産業育成のためにも、そういったものを逆にPRして、選手のためでもあるんですけど、地元経済のためにもそういったものは売り込む必要が逆にあるんじゃないかなという感じがしているんですけど、その観点からどうなんでしょうか。

○溝口幸治委員長 では、松野委員と重村委員のをまとめて、高口部長。

○高口商工観光労働部長 今KUMADAI マグネシウムの活用につきまして、御意見をいただきました。

KUMADAI マグネシウムは今2人の先生がお話になったように非常に軽くて強度が強い。ただ非常に高価なものですので、すぐに例えば車の材料に使うとかという状況ではないものですから、まずそういう高価でも使っていただけたところに今、販路を見つけようとしていまして、そういった一環が車椅子ですとか、それからあと義足ですとか、ちょっと医療機器とかの部材に今アプローチをかけております。

特に、こういった福祉機器は少し高くても使っていただける要素がありますので、従来から、始めたころからこの分野は注目してサポートというか、いろいろなところにお話をさせていただいておりますので、多分今の車椅子の部分も県の産業振興課のほうの予算と

かで支援している部分でやらせていただいていると思いますけども、今後もしっかりと、特にこういったパラリンピック向けに、あと4年・5年ありますので、いろいろとアプローチをかけさせていただきながら、有名な選手が使っていただければそれが広がっていきますので、ぜひ委員の皆様方の御意見をいただきながら、しっかりとそこら辺のところも企業と一緒にやりながらサポートしていきたいと思っています。

○松野明美委員 まだ5年前ですから、オリンピックまでに。この間はそういう話はいりません。大体、大会の1年から2年くらい前から出てくるんですね。私もマラソンで世界陸上に出ましたときに、1年ほど前から、100グラムあるかないかの軽いマラソンシューズをつくっていただきました、特注で。そういうふうユニフォームを改良するとかスパイクをとにかく軽くするとか、そういうふうなことはだんだんと出てくるようになりますので、ぜひそのあたりを、このあたりをちょっと進めていただくと、非常に熊本県というアピールができるのではないかなと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。以上です。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○氷室雄一郎委員 キャンプ誘致については、各市町村の説明会を6月の15日に終わっているということです。それから各市町村の意向調査を今やっておられると思うんですけど、これ7月中に終わるんですか。

○満原観光課長 各意向調査等につきまして、今週末、7月3日に締め切らせていただいております。それからデータを整理して、各自治体の市町村長の方々にお話をさせていただくという形にいたしております。

○氷室雄一郎委員 各市町村でもいろんなルートを持っておられると思うんですけども、県も今からスタートですけども、各市町村でそれぞれユニークといいますか、特徴ある取り組みをやっておられるところはあるんですか。県よりも先行してやっておられるところは。

○満原観光課長 県より先行してというところは、なかなか情報は入っておりません。

ただ、例えばラグビーについては夏の大会になりますので、その前で涼しいところ、我がほうはどうかという、県央の町とかは一生懸命されているという情報は入っております。

○氷室雄一郎委員 いろんな、これから各自治体も一生懸命取り組んでいかれると思う。一元化ということは難しいかと思えますけども、各市町村と連携をしながら、効果的なやっぱり誘致活動を展開していただければと思っておりますので、その辺はこの意向調査が終わりまして、総括をしていただいた上で今後、県の取り組みが始まると思うんですけども、その辺はしっかり各市町村との連携をとりながら、より効果的な活動が展開できるように、私のほうから要望しておきます。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○重村栄委員 ちょっとラグビーにこだわって済みません。私も学生時代にラグビーをやっていたので、ちょっと変にこだわっているんですけども。

車椅子ラグビー、ウェルチエラグビーというのがあって、荒尾にも日本代表の選手がおりまして、乗松聖矢君というのがいますけども、全日本クラスには長洲出身の方もいらっしゃるって、今、埼玉在住だと思

います。

そんな形で県内の関係者がいらっしゃるんですが、特に荒尾の乗松さんあたりの話を聞くと、日ごろの練習の機会がないんですよ。まず、その車椅子ラグビーというチームがないので練習する機会がないと。日ごろは違ったスポーツをされているんですね、車椅子で。こういう方の日ごろの練習のサポートをこれからどうされるのか。多分、彼は全日本代表で入っていくはずなんですけど、多分この支援の体制でいくと、合宿とかそういった遠征費だとかいうことサポートになっているみたいなんですけども、その以前の日ごろの練習というのがどういうふうにサポートされていくのかなと。非常に練習する機会も恵まれない、そんな中でいろいろ努力をされているんですが、そういったものをどうサポートするのかなというのが非常に気になってしょうがないですよ。遠征だとかそういったものは当然としても、やっぱりスポーツはその遠征それだけではないんで、日ごろからの積み重ねなので、そういった積み重ねをどうサポートしていくのかなというのが非常に大事になってくるのかなと。ある面では、レアケースなんですね。ないところでそういうスポーツをやっているということ自体もレアケースなんですけど、でも、それが現実として、全日本クラスの力を持っている選手なので、そういったもののサポートもやっぱり考えんといかぬのじゃないかなと思うんですよ。そういった点はどういうふうにされるのかなというのが、1点です。

それから7ページと8ページを見てちょっとよくわからないんですが、7ページの下から6段目、医科学を活用した効果的なトレーニングに要する経費等に対する補助というのがあります。それから8ページには、パラリンピックのところで、医科学を活用した効果的なトレーニングの提供を行うと。片方はトレーニングに要する経費等に対する補

助、片方は、トレーニングの提供という言葉の使い分けをしてあるんですが、これはどういうふうに違うのか、ちょっとお聞かせいただきたい。

○井上障がい者支援課長 まず、最初の練習の機会の確保についてでございます。

委員御指摘のように、車椅子ラグビーですとか車椅子バスケットなど、県内に競技団体がいない競技がございます。こういった方たちは、例えば福岡ですとかそういったところに土・日に行って練習をされる、そういったことをなさっています。

ですので、県として支援できるのは、交通費とかそういったものに充てられるようなそういう助成をする、そういったことになろうかと思えます。

それと、2番目の提供についてですが、私どもが提供と言っておりますのは、この事業を熊本県障害者スポーツ・文化協会のほうに補助をいたしまして、そこが実施主体としてやっております。そのスポーツ文化協会のほうで、そういった医科学のトレーニングについて実施主体としてやっているということで、選手の皆さんに来ていただいて指導するということで、「提供」というふうな使い方をしております。以上です。

○平田体育保健課長 7ページの、東京オリンピック選手育成事業でございますが、経費等に対する補助につきましては、県の競技団体並びに県体育協会への補助でございます。

県の体育協会におきましては、ナショナルトレーニングセンターによるメディカルチェック、こういったもの。それから栄養サポート、メンタルサポート、そういったものを行います。

また、各競技団体におきましては個人への専属のトレーナーの配置、こういったものを行いますので、こういったものがここで申し

ております「医科学を活用した」というところでございまして、そういった県体育協会それから各競技団体への補助というのが事業でございます。

○重村栄委員 障がい者の車椅子等の練習等のサポートの件ですが、今まではされてないので、これからそういうふうな日ごろの練習の、「遠征」とは言われませんで、練習に行く、そういった交通費、これが対象に入ってくるというふうに受け取ってよろしいんですか。

○井上障がい者支援課長 指定選手についてはクラス分けをいたしまして、上限幾らまでということで助成金、補助金を支給いたしますので、その中で練習に行く費用も賄っていただければ、それはそれで結構かと思えます。

○重村栄委員 わかりました。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○濱田大造委員 関連してなんですけど、過去に強化選手に指定して結果はどうだったんですかね。金メダル。目標とかそういうのがあるのかなというのを、教えてください。

○平田体育保健課長 これ昨年度から事業をやっております、昨年度の成果といたしましては、来年開催されますリオデジャネイロのオリンピックのバレーボールの女子の日本代表選手あるいはレスリング、フェンシングの年代別の日本代表選手などがそろっているところでございます。

今後の目標といたしましては、これまでの過去オリンピックは大体10人前後の選手が出ておりました。東京オリンピックにおきましては20人の選手を目標としているところで

ざいまして、そういったことから、その倍の45人あたりを指定しまして取り組んでいこうと思っているところでございます。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。
（「関連で」と呼ぶ者あり）

○松野明美委員 済みません。私たちのときにはSランク、Aランク、Bランク、Cランクというランクづけがありました。たしかSはスペシャルということで、メダルを取れる可能性がある選手、Aが入賞できる選手、私はその後だったんですけど、そういうふうなランクづけみたいなのはしてあるんでしょうか、この選手で。おそらくしてあるのかなと思うんですが、お願いします。

○平田体育保健課長 この本県におきます45人の指定選手につきましては、ランクづけというのはしておりません。オリンピック出場選手を目指すということでございまして、ランクづけはしてないところでございます。

○松野明美委員 わかりました。
それはそれで多分私は大丈夫だと思いますが、ランクによって補助金が違うんですね。やっぱり選手たちは少しでも上に上がって頑張っていこうというような、そういう気持ちもやはりスポーツの中では大切ではないかなと思います。私は無理してランクを付けてくださいとは言いませんが、そういうことを私たちは経験しましたので、ぜひそういうことも参考にさせていただくとうれしいです。以上です。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○荒木章博委員 私は関連して、氷室委員の関連してですね。

さっきの氷室委員のキャンプのことでまた話がありましたのでね。先般、5月29、30、

31、世界大会が、日本武道館で剣道大会がありました。そのときに韓国選手と小丸1つ差で日本が本当に勝利をもぎ取ったんですけどもね、その前に韓国選手団が熊本の地でキャンプをいたしました。そのときに西村選手、山田選手、山田は高校生だったんですけども、山田と西村選手と強化チームとして試合に臨みました。それには福岡県警、長崎県警、大分県警、鹿児島県警の機動隊と一緒に韓国のナショナルチームと試合をさせた。そして5台のカメラで韓国の選手団のバールを脱いだんですね。そして西村選手は韓国に、かなり国際的に強くなった。強いのがおると、熊本で。監督を初め執行部、コーチは全部来ていますので。上にナショナルチームが全部上で、試合に出ずに全部見ていました、2日間にわたって、韓国の技を。そういった一つの何と言うかな、熊本でそういうことが起きたときに、熊本県は市合わせて50万円を合宿ということで進呈をしたんですよ。そうでしょう平田さん。そこのところをちょっと聞かせてください。

○平田体育保健課長 熊本県で事前のキャンプがございまして、そういったところには県と市それから観光関係というようなところがあって補助があったと思っております。

○荒木章博委員 そこで、今、商工観光労働部長に最後にお尋ねをしたいと思うんですけどね、これだけのキャンプ地を望んでいくとするならば、何らかの、例えばベルギーが来たときに、誰も知らぬでしょうから、予算をつけて、あれは2,000万ぐらいついていたと思うんですよ。そしてベルギーの滞在費とか何とかを出しますということで、ベルギーに行っただけですよ。そういうきちんとしたものをしていかないと、私はもうさっき言ったように後半戦の後半戦と言っているんですよ。キャンプをします、どうしますとさっき

から話もあってはいたけれども、実際的に取るためには熊本県の姿勢を出さなきゃいかぬと思うんですよ。その予算化を含めて、どう考えられるかちょっとお尋ねします。

○高口商工観光労働部長 今、委員御指摘のように、キャンプ地の誘致については、まさにちょうど企業誘致と同じような状況になっているのではないかなど、特に人気があるチームとか強いところはそういう状況になっているのかなというふうに、私どもは認識しております。

そういった中で、個別のキャンプをどう確保していくのかということに関しては、小規模なものについては現在、予算のほうでもそういったキャンプ地誘致の補助金は持っております。恐らく、今後そういった競争の中でいろいろなケースが出てくると思いますので、ここら辺はちょっといろいろと、個別でいろいろお話を聞きながら、キャンプの誘致とかマイルスとかいろいろ私たちも、いろんなツールがありますので、ここら辺を総合的に勘案しながら、場合によってはそれでも足りないときには、いろいろと県議会のほうともまた相談させていただきながら、なるだけ取れるような方向で、またしっかりとやらせていただきたいというふうに考えております。

○荒木章博委員 やっぱりチームを取る、その国を取る、ある程度の国を取る、これは全国望んでいますよ。そういった中で、資金力がなくて取れるはずがないんですよ。だから、やっぱりその環境整備はもちろんですね。しかし資金力でどんなふうな予算を組むのかということ、今、骨格予算で決めないと、重要政策費で落とすよつたつちや、それはだめですよ。だから、きちんと選択を決めて、高口さん、局長よかですか。私が言っているのは、そういったことでお願いしたいと思います。終わります。

○溝口幸治委員長 それでは、今の国際スポーツ大会を契機とした地域活性化も含めて質問が出たようですので、ほかに質問がありますか。

○橋口海平委員 最後の11ページなんですが、この女子ハンドボール世界選手権大会とラグビーワールドカップのプレ大会とテストイベントの開催と書いてあるんですが、これは特に何か目標というか、どの大会を取ってくるのか、そういうのはあるんでしょうか。

○満原観光課長 現時点におきまして、目標と申しますか個別具体的なものはありませんけれども、例えばラグビーにつきましてはアジアの5カ国対抗ですかね、対抗が先日ありましたけれども、これは1都市で開催するものではなくて、1試合ごとに違う場所でやって、多分ラグビーを広めるという意味もあってかと思えますけど、そういったものがありますので、そういったものを目指しながら着実に本大会を実施できるようなプレ大会を実施していきたいというふうに考えています。

○橋口海平委員 要望ともなんですが、その2019年は自国の大会なので、日本というのは予選がもしかしたらないかもしれないんですけど、やっぱり予選とかそういうものを引っ張ってきていただいて、例えばアジアラグビーチャンピオンシップですか、あれなんか多分日本が優勝すると思うんですけど、それでやっぱり日本が優勝してラグビーワールドカップを開催することになったとか、そういうのを九州の中で言うと、「敵」と言うとおかしいんですけど、福岡と大分がライバルとなってくると思うんですが、福岡はもうスタンド席が2万ちょっとしかないの、大分の戦いになってくると思うので、そういうところは鹿児島なんかともしっかり連携をと

って、何で熊本でそういうカテゴリー、先ほど荒木先生がおっしゃったような大会をする必要があるのかというようなものも、ぜひ訴えていっていただきたいと思います。以上です。

○高口商工観光労働部長 今ラグビーのことでいろいろございました。先ほど観光課長が話しましたように、テストマッチというのは非常に我々は重要視しております。前回ハンドボール世界大会のときにも、事前に2年間ぐらいにわたってジャパンカップとか幾つかのそういう大きな大会でテストマッチ的な形でいろんな運営のノウハウとか、そこら辺も使わせていただいたところがありますので、そういった部分でも非常に我々大事だと思っていますし、それから本大会の盛り上げという部分でも非常に重要だというふうに思っていますので、そこら辺は今委員の御指摘を踏まえて、しっかりとやらせていただきたいと思います。

○溝口幸治委員長 ほかに質疑はありませんか。

なければ、これで質疑を終了いたします。

今までの議論を通じて、もちろん執行部がたくさん情報収集を積極的にやっていくのも重要ですが、市町村それから競技団体あるいはいろいろな協会だとか、そういう人たちからの情報提供ですね、それをやっぱり情報提供してもらって、それを正しい情報なのか違うのか、あるいはその情報を扱う上では利害関係はどうかというのをちゃんと精査しなればやっていくというのが大事だと思いますので、たくさん情報提供をしていただけるような環境をぜひつくっていただきたいというふうに思っております。

次に、閉会中の継続審査についてお諮りします。

本委員会に付託の調査事件については、審

査未了のため次期定例会まで本委員会を存続し審査する旨、議長に申し出ることとしてよろいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

次に、その他に入ります。

私のほうから提案がございます。閉会中の視察の件についてですが、委員会でやる委員派遣というのは、本来会議規則第81条により委員会としてこれを議長に申し出ることとなっております。しかしながら、緊急な委員会視察が必要な場合に、委員会をそのたびに開催するのが不可能な場合もあります。

そこで、委員長一任ということによろいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 異議なしということですので、そのようにいたします。

ほかにございせんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 なければ、これをもちまして本日の委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

午前11時43分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定によりここに署名する

国際スポーツ大会推進特別委員会委員長